

議事録（要旨）

日 時	令和4年1月26日（水）	時 間	13:30～15:30
場 所	千葉県企業局 幕張庁舎2階 特別会議室 (web 会議併用)	出席者	(懇話会メンバー) 鎌田メンバー (座長)、 小松崎メンバー (副座長) 外11名 (企業局) 岩船水道部長、渡辺水道部次長、 鳥海計画課長、小林浄水課長、佐藤給水課 長、その他職員、事務局職員等
議事名	第2回おいしい水懇話会		
<p>○開会</p> <p>○懇話会の公開について</p> <p>○配布資料の確認</p> <p>○懇話会メンバー、局職員紹介</p> <p>○水道部長挨拶</p> <p>○座長挨拶</p> <p>○議題1 残留塩素の低減化について</p> <p>資料(p3-5)により、水質自動監視装置と令和3年度の残留塩素低減化試験について事務局から説明。</p> <p>主な意見、質疑は以下のとおり。</p> <p>(懇話会メンバー) 残留塩素低減化試験の結果を見ると、まだ残留塩素に下げる余裕がありそうだが、見込みはどうか。</p> <p>(企業局) 本報告では一例をお示しした。今後、全ての結果を取りまとめ、水道水の安全性を第一に考え、全ての地点で残留塩素を下げて問題ないか慎重に判断していきたい。</p> <p>(懇話会メンバー) 安全面を重視した上でどのくらい下げられるか、適正な値を探っていくということか。</p> <p>(企業局) そのとおりである。</p> <p>(懇話会メンバー) シミュレーションでは到達時間から残留塩素を予測していると思われるが、配管の使用年数等他の要素を加味して残留塩素の減衰率を予測するなどの検討はしているのか。</p> <p>(企業局) 配水残留塩素管理目標値を下げられるかどうかは、試験で実測したデータを基に検討している。ご指摘のとおり、残留塩素の消費は到達時間以外に配管の状態等も影響することが考えられるので、そういったことも踏まえ、検討に活かしていきたい。</p> <p>(懇話会メンバー) 電気伝導率を見ているのは、水道水中の不純物が増えているのかどうか</p>			

議事録（要旨）

を調べているということか。

（企業局）残留塩素低減化試験では、水の到達状況を把握するために電気伝導率のデータを使用している。電気伝導率は維持管理項目として測定している項目で、基準値等は設定されていない。電気伝導率は水に電気を通しやすいものが溶け込むと上昇するもので、配管内では大きく変動しない。そのため、原水水質の変動により浄水場で浄水の電気伝導率が変動した場合、配水管内の水道水の電気伝導率も同様に変動することから、その時間差を見ることで水の到達時間を推測することができる。

○議題2 安全でおいしい水のPRについて

資料(p6-14)により、水質検査体験の結果報告及びおいしい水検定の実施報告について事務局から説明。

主な意見、質疑は以下のとおり。

（懇話会メンバー）水質検査体験について、リピーターはどれくらいいるのか。また、水質検査体験は浄水器を取り付けていない方が対象となっているのか。

（企業局）リピーターについては正確な数は出していないが、初回という方が一番多かった。浄水器については、アンケートで浄水器を使っているかという質問をしているが、試験の際は浄水器を使わないようお願いしている。参加者の中には浄水器を使用した結果と比較した方もいた。

（懇話会メンバー）おいしい水検定について、小学校1年生だとまだ漢字が読めないと思うが、問題にはルビが振ってあるのか。

（企業局）小学生用の受験フォームについては、小学4年生を想定して作成しており、小学4年生までに習わない漢字は全てひらがなにするか、表現を変えるなどしている。

（懇話会メンバー）水質検査体験のアンケート結果の「飲み水としての満足度」と「安全性」と「塩素臭」の寄与について、報告では塩素臭が重要だということであったが、「不満である」と答えた方を基準に考えると、「塩素臭を感じる」方より「安全性に不安」を感じる方の方が多いと感じた。

（企業局）報告では「満足している」方に焦点を当てたが、ご意見のとおり「不満である」という方に焦点を当てることでまたいろいろなメッセージが探れる可能性があるので、このような集計を検討していきたい。

（懇話会メンバー）水質検査体験のアンケート結果で、安全性に不安があると回答された方の中に、「水質事故や原発事故があったから」や「週刊誌などで言われているから」という方がいたが、こういう風評被害や思い込みで回答する方、味覚ではなく耳から入った情報で判断する方がいるというのは、今後風評被害を払しょくするような啓発活動が必要と感じた。

（企業局）ご指摘のとおり、特に理由はないが漠然と不安を感じている方も多く、自由意見でも浄水器を使って外す気にはなれないという方もいる。当局では水道水についてより知ってもらうことで意識が変わっていくのではないかということから、安全でおいしい水をPRする取組を進めている。

議事録（要旨）

（懇話会メンバー）おいしい水検定は局が伝えたいことを盛り込んでいて、素晴らしい取組だと思ったのもっと大勢の方が参加できるようなPRができるといいなと思った。資料の問題について正解を教えてもらうことはできないか。

（懇話会メンバー）希望する懇話会メンバーに一度受けてもらえばよいのではないか。

（企業局）後日解答を送付するので、お手すきの時にやってもらえればありがたい。

資料(p15-17)により、PRグッズ（リーフレット、下敷き、ポスター図案（A案、B案））について事務局から説明。

主な意見、質疑は以下のとおり。

（懇話会メンバー）ポスターB案は白基調でまぶしく感じるのでA案の方がいいと感じた。

（懇話会メンバー）水の色が際立っていてポタリちゃんがかわいいA案がいいと思った。

（懇話会メンバー）B案の方が白っぽくてきれいな水というイメージが伝わると思いB案の方がいいと思った。グラフはB案は蛇口から水が出ているのは面白いが、A案のグラフの方が見やすいと思った。また、グラフが平成18年から平成30年と書いてあるが、いずれ平成と令和が混在すると、平成18年が何年前か計算できないと思ったので、西暦で書いた方が分かりやすいと思った。

（懇話会メンバー）現物の大きさを見ていないので違うかもしれないが、A案の方がブルーがはっきりしていて、ポタリちゃんが大きくてインパクトがあっていいと思う。下のグラフもA案の矢印がビュンと上がっているのがいいと思った。

（懇話会メンバー）B案の方がポタリちゃんの全身が写っていてかわいらしさが目立つかなと思った。またグラフが蛇口から出ているのも今までにないデザインで、細かい数値はどちらにしるわかりづらいのでかわいらしくていいと思った。

（懇話会メンバー）A案の方が遠くからパソコン画面で見ても色がはっきりしていて見やすい感じがした。グラフはB案は蛇口から水が出ているのが面白いと思ったが、最大値が見やすいのはA案と思った。全体的にはA案が好きだが、「安全・おいしい水プロジェクト」の部分が目立つのはB案だと思った。

（懇話会メンバー）A案の方がインパクトがあり、B案は月並み感があるのでA案の方がいいと思った。A案のグラフは数値を印象付けるために、棒グラフの濃淡は逆じゃないかと思った。B案はプロジェクトの部分の後ろの背景の色が違うので、A案ならプロジェクトの背景に色を差し込むといいと思った。

（懇話会メンバー）このポスターのメインのターゲットが誰であるかお聞きしたい。というのは、このポスターについて家族で批評したが、夫婦はA案の方が水に興味がなくともインパクトがあっていいという話だが、子どもはB案の方がポタリちゃんがかわいいという話をしていた。大人と子供で好みが違うので、一番のターゲットの好みに合わせることもいいのかなと感じた。また、A案でもB案でも千葉県企業局（千葉県営水道）というロゴの場所が唐突な感じがするので、もう少し控えめな場所にあるといいと感じた。

（企業局）ターゲットを絞っているわけではないが、お子さんとご夫婦のご意見をもらえる

議事録（要旨）

のはとてもありがたい。

（懇話会メンバー）個人的にはA案で、他の皆さんの意見と同じくインパクトがあると思った。ただ、キャッチフレーズの「おいしさ磨く 千葉の水」がぱっと入ってくるのがB案かなと思った。グラフについてはA案は水が出て跳ねているようなデザインになっているように見えるが、（蛇口がないので意味が）わからない気がする。あとこれは好き好きだが、ポタリちゃんが4箇所にいるのが多いのではと思った。

（懇話会メンバー）個人的にはB案の方が好きかなと思った。あとこのポスターで何を伝えたいかというところで、満足度が上昇したというところをあまり大きくすると自慢的に見られるからあえてこの大きさにしたとも拝察したが、私はもうちょっとインパクトがある大きさにした方がいいと思った。

（懇話会メンバー）個人的にはA案の方がいいと思う。リーフレットの表紙や下敷きがどれもポタリちゃんがアップなので、それに合わせてポタリちゃんアップのデザインがいいかなと思った。グラフはB案の方が蛇口から出ているのが斬新でいいと思う。また、前にも意見があったが西暦の方が分かりやすいと思った。あと、図が小さいから中央で分析をしている人が何をしているのか分かりにくかった。

（懇話会メンバー）A案のデザインの方がいいと思う。グラフについては水が流れているというのを使うのであれば、B案の蛇口から出ているというグラフを使った方がいいのかなと思った。

（懇話会メンバー）私もA案の方がいいと思ったが、字の部分だけ気になったので、他の方のご意見を参考にしてもらいたい。

全体を通しての意見、質疑は以下のとおり。

（懇話会メンバー）リーフレットで残留塩素濃度が0.56mg/Lまで下がっているというアピールは、水道水を漠然と不安に思っている方に、有効なPRであると思う反面、本日の水質検査体験の結果で最夏期ではあるが、42%の人達が残留塩素濃度を0.8～1.0mg/Lと回答しているので、0.56mg/Lと言い切ってしまうには危うさがあると感じたので、心に留めてもらいたいと思った。

（懇話会メンバー）確かに1.1mg/L等高い回答がいくつかあった。実際に残留塩素が高い地域があつて結果として出ているのか、それとも誤測定の可能性はあるのか。

（企業局）水質検査体験の残留塩素の結果については簡易水質検査キットによるもので、残留塩素が高いと濃いピンク色になる。当局で送り出している残留塩素濃度以上の回答もあり、色の違いから数値を判断してもらうことに加え、規定の時間を超えると色が変化してしまうこともあるので、あまりにも高い数値は誤測定の可能性が高いと考えている。

（懇話会メンバー）他県で水道民営化の話題が出ているが、千葉県は実直に真摯に取り組んでいることを出前講座など一生懸命PRしているのでこれからもぜひ頑張ってもらいたい。

（懇話会メンバー）水質検査体験で、配水区域ごとに残留塩素の結果に違いがあるのか、またそういう確認方法はしているのか。

議事録（要旨）

（企業局）残留塩素は滞留時間が長くなると低下することから、浄・給水場の近くか遠くかというところでも幅が出てくるため、様々なことを考えながらデータ集計を行っていきたい。

（懇話会メンバー）今回残留塩素低減化について細かく説明があり、なかなかぱっと減らせる話ではないと思うが、だんだん成果も出てきているので次の報告を楽しみに待ちたい。おいしい水検定については思ったよりも応募者が集まらなかったが、水質検査体験の応募者がものすごく増加しているので、検査体験の方に検定を受けてもらうようにPRする方法もあるかと思った。

○水道部長挨拶

○連絡事項・閉会

以上